

## フューザブル™ ペチュニア

学名: *P. x hybrida*

ペレット粒数の目安: 31-33 粒/グラム

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.5 から 6.0、EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)が適正

#### 播種

288 穴、105/128 穴、72 穴、あるいはそれよりも大きなセル容積のトレイを用いる。105/128 穴またはそれ以上の大きさのトレイを推奨している。覆土はしない。播種後はペレットを完全に融解させるよう十分に水を与える

#### ステージ 1 - 概ね 4 日で発芽する

**温度:** 22 から 24°C

**光条件:** 光は良好な発芽に効果がある

**水分:** ステージ 1 において、最適な条件で発芽をさせるため培地は十分な湿潤条件(level 5)をつくる

**湿度:** 幼根が発生するまでは相対湿度を 99%+で維持

#### ステージ 2

**温度:** 20 から 24°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

**水分:** 培地内での根の生育を促すため、水分を少し下げて適度な湿潤(level 4)とする

**肥料:** レート 1(100ppm(N)、EC 値が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態肥料を与える

#### ステージ 3

**温度:** 18 から 21°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.) まで可能

**水分:** 水やりの直前までは培地の表面が明るい茶色に乾くくらいまで、適度に乾燥させる(level 2)。このように適度な乾燥と湿潤(level 2 と 4 の間)を循環的に繰り返す

**肥料:** ステージ 2 と同様の肥料の濃度をレート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mmhos/cm)に上げる。苗の育ち方が遅い場合は、硝酸態とアンモニア態の肥料を交互に与え、栄養生長を促す。培地は、pH は 5.8 から 6.2、EC の値は 1.0-1.5 mmhos/cm(2:1)を維持する

**矮化剤:** 可能であれば、矮化剤を用いずに育てることが望ましい。各プラグセルの中で発生する、複数の苗どうしの拮抗によって自然な生長制御がはたらく、またステージ 4 では低温条件にあてること、プラグ苗が自然に強健性を身につける

### 【矮化剤 アメリカ仕様】

矮化剤が必要な場合は 5,000ppm の B ナインを散布する。最初の処理は本葉が 2、3 枚展開した段階でおこなう。2 回目はその 7 日後。この処理によって、成熟時の株の基部分枝の発達が確認されている

### 【矮化剤 北ヨーロッパ仕様】

B ナインを 1,250ppm の濃度で、1 回から 3 回の処理で効果が確認されている。必要に応じて散布をおこなう

### ステージ 4

**温度:** 16 から 18°C

**光条件:** 温度のコントロールが可能なら、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

**水分:** 上記ステージ 3 と同じ

**肥料:** 上記ステージ 3 と同じ

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

15 から 20cm ポットやコンテナ: ポットにプラグ 1 本植え

25 から 30cm のコンテナやバスケット: カラーボールやバスケットにプラグ 3 本植え

#### 培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.5 から 6.2 が適正。培地の初期の養分量は中庸とする

#### 温度

**昼間温度:** 16 から 24°C

**夜間温度:** 14 から 18°C

※ フューザブル(ペチュニア)は、最低温度 10°C の条件でも育つ。ただし、日長時間に問題がない場合は、生産期間(到花期間)は昼間の平均温度に影響を受ける。温度が低ければ低いほど開花まで長い時間を要することになる

#### 光条件(照度)

温度が適度に維持されている間は、できるだけ高い条件を維持する

#### 肥料

リン酸分の低い硝酸態の肥料をレート 3(175-225ppm(N)、EC 値:1.2-1.5mS/cm)の濃度で、かん水と交互に与える。株の生育具合を見ながら、必要であればアンモニア態と硝酸態をバランスよく使って株に勢いをつけさせる。pH は 5.8 から 6.2 を維持する。

上記の pH および EC の範囲で維持ができるのであれば、レート 2(100-175ppm(N)、EC 値:0.7-1.2mS/cm)の肥料を多頻度で用いる方法も可能

### 矮化处理剤

苗の移植後 7 日で、5,000ppm の B ナインで処理し、さらに 1 週後にボンザイを 2 から 4ppm でかん注する。さもなければ、一般的なグランディフローラペチュニアあるいはスプレディングペチュニアと類似のレシピをおこなう

※ なおプレザントリブルーについては、ボンザイの散布及びかん注、また B ナインの散布の反応は限定的である

※ 矮化剤の使用に関しては、自身の施設に用いる最適な濃度や倍率を決めるにあたって、事前に試験を行うことが望ましい

### 日長時間との関係

フューザブル(ペチュニア)は多少日長に影響を受ける。このマルチペレットに用いられる品種は 10 時間の日長条件で問題なく開花する。ただし、10 時間の条件では長日時よりも 3 から 6 日開花が遅れることがある

### 平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 4 週  
播種から移植まで(128/105 穴トレイ): 5 週  
播種から移植まで(72 穴トレイ): 5 から 6 週

移植から開花まで(288 穴トレイ): 6 から 7 週  
移植から開花まで(128/105 穴トレイ): 5 から 6 週  
移植から開花まで(72 穴トレイ): 4 から 5 週

移植から出荷適期まで:

コンテナ サイズ	植付本数 /ポット	春生産 (春出荷)	春生産 (初夏出荷)
15 から 20cm ポット/コンテナ	1 株	9-11 週	7-9 週
25cm カラーボール/ バスケット	1-3 株	10-12 週	8-10 週
30cm カラーボール/ バスケット	4 株	10-12 週	8-10 週

### 予想される病例や虫害等

適正な管理が施され、いわゆる IPM(総合的病虫害管理)が行なわれているのであれば、病気や虫害による大きな問題は発生しないであろう

### 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

**注意点:** EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合があります。